



自閉スペクトラム障害の特性とコミュニケーション支援

フリーランス児童精神科医 門眞一郎 氏

自閉スペクトラム障害や視覚支援に関する多くの訳書を執筆されている門先生。自閉スペクトラムのある人の特性に基づくコミュニケーション支援の大切さについてお話いただきました。

「自閉スペクトラム」と「自閉スペクトラム障害」のちがい

社会モデルに基づく障害者基本法によると、「障害」とは継続的に日常生活や社会生活に相当な制限を受ける状態を指す。生まれつき脳機能のタイプが一般の人と違う自閉スペクトラムのある人は、著しくメリハリが効いており、それが「社会的障壁」とぶつかり合うと障害レベルとなる。自閉スペクトラムのある人は、本人の中にある問題ではなく環境とのミスマッチによって、「自閉スペクトラム障害」になることがある。

「ダイナミック氷山モデル（門先生提唱）」では、自閉スペクトラムのある人のメリハリを氷山に、環境や社会を海水に例えている。周りの人の理解や支援が不適切であると海水の塩分濃度は高く、氷山が浮かび上がり、障害となって水面上に顔を出し「自閉スペクトラム障害」となる。適切な理解と支援による対応の下では海水の塩分濃度は低く、氷山は沈んでいるので、障害とはならず単に自閉スペクトラムのある人になる。「障害」となるかならないかは、海水の塩分濃度（＝環境や社会）によってダイナミックに変化する。

メリを責めず、ハリを活かして支援する

苦手なこと・不得意なことを「メリ（減り）」、得意なこと・強みを「ハリ（張り）」と呼ぶと、自閉スペクトラムのある人の最も重要なメリハリは、「メリ：言葉だけでは正確な意味理解が困難」「ハリ：視覚的な手がかりがあれば意味や見通しを理解しやすい」ということである。発達検査や知能検査の結果によって、メリハリが客観的に分かるので支援方法の根拠となる。自閉スペクトラムのある人のコミュニケーションの特性をよく理解した上で、ハリを活かした適切な支援を考えると、必然的に視覚的コミュニケーションが有効であるということになる。

視覚支援は、知的障害がなく言葉を流暢に話すことができる人にも必要であり、テンプル・グランディン氏他、自閉スペクトラムのある当事者の著書の中でも語られている。

コミュニケーションの視覚的支援は合理的配慮の一つ

支援をする時、そこは必ずコミュニケーションの場となるので、コミュニケーションが成立しないと上手く支援することができない。自閉スペクトラムのある人は、通常のコミュニケーションが苦手であるという特性があるので、コミュニケーション支援を基礎としておくべきであり、それは、合理的配慮の一つとなる。

コミュニケーションの視覚的支援には、自閉スペクトラムのある人に「どう伝えるか」という理解コミュニケーションと、「どう伝えてもらうか」という表現コミュニケーションがある。理解コミュニケーションの支援では、自閉スペクトラムのある人にとって明確になっているとは限らない場面での「意味」と「見通し」を、構造化によって明確に伝えることが大切である。表現コミュニケーションの支援では、AACの一つとして、絵カード交換式コミュニケーションシステム(PECS)がある。子どもの最早期のコミュニケーションは、理解よりも表出の方が先に始まる。PECSは、自閉スペクトラムのある人にとって、機能的コミュニケーションの自発的な表出を教えている。理解コミュニケーションと表現コミュニケーションの両方を支援して、はじめてコミュニケーションの支援となる。

今回のセミナー講師 安倍陽子先生の著書御紹介



発達障害の子も のびのび暮らせる 生活サポートブック 幼児編
佐々木正美(監修)、安倍陽子 幸田栄(著)
すばる舎 2012.9



特別支援教育をすすめる本

- 1 こなとき、どうする？発達障害のある子への支援 幼稚園・保育園
 - 2 こなとき、どうする？発達障害のある子への支援 小学校
 - 3 こなとき、どうする？発達障害のある子への支援 中学校以降
- 内山登紀夫、諏訪利明、安倍陽子 ミネルヴァ書房 2009.3



- 新版 発達と障害を考える本 1 ふしぎだね!? 自閉症のおともだち
新版 発達と障害を考える本 2 ふしぎだね!?

アスペルガー症候群〔高機能自閉症〕のおともだち

内山登紀夫、諏訪利明、安倍陽子 ミネルヴァ書房 2019.9



令和4年度 千葉県TEACCHプログラム研究会 第3回連続セミナーのお知らせ

日 時：9月11日（日）14：00～16：30（13：30受付開始）
会 場：千葉中央ホール第一会議室（千葉市中央区中央 3-18-3 加瀬ビル 158 8F）
演 題：「構造化を用いた学習支援」（仮題）
講 師：西田 恵理子 氏（東京都立王子特別支援学校 指導教諭）
配信期間：9月16日（金）～10月2日（日）
※次回講師、西田恵理子先生の御紹介

「指導教諭」として、東京都立王子特別支援学校の小・中学部・高等部の教職員を対象に、授業観察をして教職員の授業力向上を図る業務をされています。

また、東京都の特別支援教育の充実に向けて、2021 年度は「東京都特別支援学校 教育課程編成基準・資料」の執筆や「教員採用ナビ」の委嘱、2022 年度は東京都研修センターの若手教員研修に係る講師などにも取り組まれ、多方面でご活躍されています。

【編集後記】 PECS と出会って 22 年という門先生のお話を伺い、コミュニケーション支援の大切さを再認するとともに、自閉スペクトラムの人が表出コミュニケーションを自発するチャンスを持ってやしないかと自省しました。「自閉スペクトラムの人の暮らしを支えるにはコミュニケーション支援」「メリを避け、ハリを活かす」という門先生の言葉を座右の銘にしたいと思います。（文責：岡村）